

ようこそ つばさ共同保育園へ



「ともに」育ち、大人も育ち合う場所を目指して

保護者の皆様、はじめまして。

本年度より「つばさ共同保育園」の園長に就任いたしました、谷野 則文（たにの のりふみ）です。2026年度からの新体制移行、そして当法人の新たな夢の実現に向けた事業のスタートのため、3年間歩みを共にしてきた前任の前川からバトンを受け継ぎ、新たな一歩を踏み出すこととなりました。

私の保育士としての歩みは、2000年、22歳の時に当園の前身である「アトム共同保育所」から始まりました。当時はまだ珍しかった男性保育士として、「自分にできることは何か」とがむしゃらに突き進む毎日。若さゆえの不器用さから、保護者の皆様に「何を考えているか分かりにくい」とご指摘をいただいたこともありました。自分自身、何を伝えたいのかが明確に定まらず、自らの課題と向き合い続ける日々だったことを今でも鮮明に覚えています。

私生活では熊取町小谷に住み、2人の子どもの父でもあります。他県から移り住んだ私たち家族にとって、子どもたちが育った「アトム（姉妹園でもあるアトム共同保育園）」「つばさ共同保育園」での日々は、何にも代えがたい支えでした。今でこそ26歳の息子は町役場で働き、娘は新潟で学生生活を送っていますが、当時は毎日が目の回るような忙しさでした。お迎えが間に合わない時に近所の保護者仲間にお願ひしたり、時折勃発していた夫婦喧嘩では第三者役として保護者仲間に入ってもらったりしたこともありました。赤裸々な家族の垣根を越えた助け合いがあったからこそ、あの日々を乗り越えられたのだと思っています。共に悩み、笑い合った仲間との繋がりは、今でも私の大切な宝物です。

2003年の「アトム共同保育園認可」化、2012年「つばさ共同保育園」の設立と、園の節目を共に歩む中で私の中に一貫してあるのは、「共同」という言葉に込めた想いです。「つばさ共同保育園」は、子どもの成長を見守ると同じくらい、「大人も育つ」ことを大切にしています。子育ては一つの家族だけで完結するものではありません。綺麗事だけではない葛藤やモヤモヤも、本音で語り合い、みんなで見守り、喜びも悩みも分かち合う。そんな「ともに」考える姿勢こそが、私たちの原点です。

2026年度、つばさ共同保育園は新たに90名の子どもたちを、職員27名で見守ってまいります。まずは4月、子どもたちが新しい環境で安心して過ごせるよう、職員一同、心を込めて取り取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



★つばさ共同保育園は社会福祉法人アトム共同福祉会が運営に責任を持っています★



変わること、変わらないこと

前川 良太

新年度が始まりました。はじめましての皆さん、ようこそアトム共同保育園へ。引き続きの皆さん今年度もよろしくお願いいたします。

春は、子どもたちにとっても、大人にとっても、少し特別な季節です。新しいクラス、新しい大人、新しい友だちとの出会いの中で、うれしさもあれば、戸惑いや緊張もあります。今年度も、その一人ひとりの姿を丁寧に受けとめながら、子どもたちとともに日々を重ねていきたいと思います。

今年の春は私自身にとっても、また新しいはじまりとなりました。昨年度末まで務めた姉妹園のつばさ共同保育園の園長を退任。あらためて、つばさの統括主任として新園長（谷野）を支えると共に、法人の事業推進室で「つばさ共同保育園併設型児童発達支援事業所」の開設準備を担当します。

障害のある子や発達に気がかりのあり療育的な支援が必要な子たちも、アトム、つばさの子どもたちと同じように保育園での豊かな生活体験を通して、友だちの輪の中で共に育っていくことができないか。これは、私自身も、保育士としてまたひとりの親として、ずっと考えてきたことです。そしてそれは、まったく新しいものを別に始めるのではなく、これまでアトム・つばさの園で大切にしてきた保育を、別のかたちで少し広げていく取り組みだとも考えています。誰もが地域でともに暮らすことを実現できる園に。障害があってもなくても、そもそも違って当たり前前の園に。誰も排除しない園に。そう掲げてきたこれまでの日々、そしてつばさの園長としてみなさんに約束してきたことを実現する一つの形にしていきたいと思っています。

子どもたちは一人ひとり違う個性をもち、育ち方も、困りごとも、それぞれに異なります。けれど、その違いや能力、評価によって誰かが切り離されたり、育つ場から遠ざけられたりするのではなく、違いを含んだまま一緒に暮らしていけることを、私たちはこれまでも大切に保育をしてきました。児童発達支援事業所の立ち上げも、その延長線上にあるものです。これから少しずつ形にしていく中で、保護者のみなさんとも思いや願いを重ねながら、園らしい歩みとして丁寧につくっていけたらと思っています。



どんなときにも真ん中にあるのは、子どもたちとの生活です。子どもたちが安心して過ごせること。保護者のみなさんと日々の姿を伝え合いながら、一緒に育ちを見守っていくこと。職員みんなが悩みながらも保育をつくっていくこと。地域とともに歩むこと。その大切さは、これからも変わりません。私自身も新しい立場での歩みになりますが、また現場に近いところから、みなさんと一緒に子どもたちの毎日を支えていけることをうれしく思っています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。